

方言っておもしろい！

日本には、地域ごとに異なる「方言」が存在し、それぞれが独自の歴史や文化を映し出しています。標準語では伝えきれない微妙なニュアンスや、地元ならではの温かみが方言にはぎゅっと詰まっています。今回はそんな方言を特集し、言葉の魅力を再発見していきます・・・読んでみませんか？

参考資料

【方言ってどうしてできたの？】

山や川が方言をつくった？

日本には、険しい山と急な川がいくつもあります。昔はよその土地に行くときは歩いて、川を渡る時は舟に乗って行くしかありませんでした。

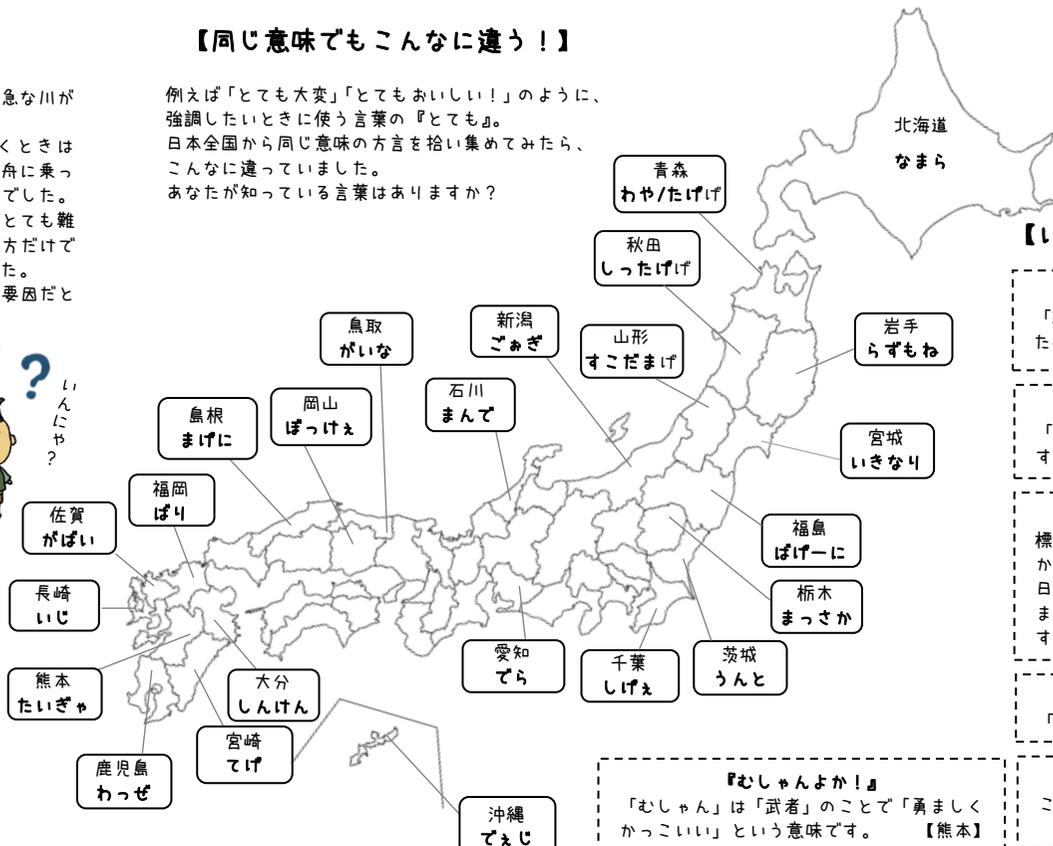
そのため、高い山や大きな川があるとそこを超えて行くのはとても難しかったので、その地方で生まれた言い方や言葉は、その地方だけで使われて、そこでだけ通じる言葉（方言）になっていきました。また「気候の違い」や「昔の国境」なども、方言をつくった要因だと言われています。

【同じ意味でもこんなに違う！】

例えば「とても大変」「とてもおいしい!」のように、強調したいときに使う言葉の『とても』。日本全国から同じ意味の方言を拾い集めてみたら、こんなに違っていました。あなたが知っている言葉はありますか？



山や川を越えた所では言葉の意味が伝わらないことが...



【いくつ知ってる？九州の方言】

- 『じゃがいものほげとる』
「靴下に穴があいている」という意味。飛び出た指がじゃがいもに見えることから。【長崎】
- 『えすかー』
「怖い」という意味。「この道、真っ暗でえすかー!」など使います。【佐賀】
- 『からう』
標準語の『背負う』にあたり、「ランドセルをからう」のように使います。福岡や熊本では日常的に使われますが、九州外ではほぼ通じません。九州で独自に発生した方言のようです。【福岡/熊本】
- 『よださい』
「面倒くさい」という意味。【大分/宮崎】
- 『てそかー』
こちらも「面倒くさい」という意味です。【鹿児島】
- 『むしゃんよか!』
「むしゃん」は「武者」のことで「勇ましくカッコいい」という意味です。【熊本】



『方言ずかん』
篠崎 晃一/監修
ほるぷ出版 K818/ホ



『お国ことばを知る方言の地図帳』
佐藤 亮一/監修
小学館 818/オ



『47都道府県方言キャラ絵本 西日本』
たかい よしかず//
作・絵 国土社 K818/タ

図書館や本に関する豆知識

「著作権」と、図書館での複写のおはなし

「著作権」はコンテンツの作り手に与えられる大切な権利です。作り手の許可なしにコピーしたりしてはいけません。しかし、公共図書館では所蔵している資料を複写することができます。ただしそれは調査や研究の目的に限られています。また「半分を超えない」などの制限があり、資料の全ページをまるまる印刷することはできません（著作権法第31条）。図書館の複写サービスが充実すぎると、著作者や出版社の利益を奪いかねず、そのため複写について一定の限度が設けられているのです。

この著作権法のルールに沿って図書館では対応しています。資料の複写をご希望される場合は、職員にお声かけください。

参照：『小学生のうちから知っておきたい著作権の基本』
宮武 久佳/著 杉本 龍一郎/イラスト カンゼン K021/ミ

スタッフおすすめの本



『おどりトラ』
金森 襄作/再話
福音館書店
E/F ¥10

自分が小さなころに読んで本をまた読みたい、そう思ったことはありませんか？
図書館の児童コーナーで見つかるたくさんの方の懐かしい本たち。その中で私のテンションが最もあがったのはこの『おどりトラ』です。
幼少期は少し怖く感じていたこの絵本ですが、大人になった今は、奇妙な白トラに夢中で、最後のページをめくると毎回「かわいい・・・」と思ってしまう。
そんなお隣の国の昔話をあなたも味わってみませんか？

(占部)

スタッフよもやま話

今回の図書館だよりの特集は『方言』です。スタッフ同士の会話の中で、『離合』が九州の方言ということが話題になったことがきっかけとなりました。狭い道で車と車がすれ違う時に使う、あの『離合』という言葉です。標準語だと思われている方も多いかもしれませんが、標準語では『すれ違う』という言葉を使います。
『離合』という言葉を使うと、分かってもらえないのだそうですよ。福岡だけでなく、スタッフそれぞれの故郷の言葉も知ることが出来て、内容をまともな作業はとても楽しい時間となりました。
ところ変われば言葉も変わる。知らなければ何と言っているのがさっぱり分からない...調べてみると奥が深く面白いです。
ちなみに、CMでよく見る「いいちこ」が「いいですよ」の意味だということを知りました。
(久原)